

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700279		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)		
所在地	京都市右京区太秦青木ヶ原町7-2		
自己評価作成日	令和3年2月14日	評価結果市町村受理日	令和3年5月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成28年に開設した地域密着型サービス事業所として、利用者様が安心して過ごしていただけるように運営している。京都武田病院が母体であり訪問診療にて主治医と連携することにより、一人ひとりの病状の経過を継続的に把握し、適切な受診対応につなげている。
 行事では各ユニットの独自性を生かすことを基本としながらも、敬老会やクリスマス会など施設全体でのイベントも開催している。(今年度は新型コロナ感染症対策として、ユニット毎で開催)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jkyosvoCd=2690700279-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和3年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「御所ノ内ホームときわ」は平成28年4月にグループホーム3ユニット、小規模多機能型居宅介護事業所、介護付有料老人ホームを併設した複合型施設として開設しました。グループホーム利用者の平均年齢86歳、平均介護度2.925です。ケアの基本的考え方として「その人らしさ」を大切に、認知症の進行予防や家庭的な温かい雰囲気大切にケアを提供しています。今年度はコロナ禍で、外出が自粛や制限されているため、施設内の行事をレクリエーション委員会を中心に知恵を絞って企画し、季節ごとの行事食など食への楽しみにも力を注いでいます。運動不足にならないように日常の散歩は続けます。看護師の常勤を配置し、協力医療機関と密接に連携して介護、医療の両面から利用者を支え、家族の安心・安全につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で3つの約束を理念として職員に周知している。 ○家庭的で温かなケアを提供します。 ○ひとりひとりに寄り添うケアを提供します。 ○確かな知識・技術・方法でケアを行います。	理念はホームページで外部に発信している。ユニット会議で話し合う機会を持ち浸透を図っている。職員ヒアリングでも「介護を通して常に職員間で話し合っています」との言葉が聞けた。不定期ではあるが「ときわ通信」の発行、ブログでの行事時の発信は遠方の親族にはとても喜ばれている。	理念の浸透は順調である。次の段階として、ユニットの利用者状況や職員の課題を踏まえ、ユニット毎に単年度目標、行動計画を立て、定期的な振り返りをおこなってはどうか。リーダー会議で助言し合い、各職員が成長されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、町内会の地蔵盆には職員がお手伝いとして協力し、入居者様も参加している。施設の秋祭りにはご招待している。(今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため招待できず)	開設当初から地域との交流は積極的におこない、地域の方とは地蔵盆や事業所の夏祭りには手伝い合う関係ができています。中学生のチャレンジ体験や高校生の職場体験、保育園児との交流もあり、「認知症サポーター講座」も開催していたが、今年はコロナ禍ですべて中止している。この状況下でも町内の方から、皿、スプーン、フォークの寄贈があった。散歩中は挨拶を交わし、地域の一員として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、高齢サポート・常磐野主催の認知症サポート講座に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため開催できず、書面にて運営状況の報告を行っている。	今年度の会議は全て書面報告で会議メンバーと全家族に送付している。構成メンバーとして家族2名、高齢サポート職員で、これまでのメンバーであった民生委員、老人福祉員、町内会長など、地域代表の参加者が少なくなっている。「町役員の交代期であり、役員が決まり次第依頼にいきます」との言葉がある。会議は報告事項として、利用者状況、職員体制、運営状況、行事、事故、ヒヤリ・ハット、新型コロナウイルス対応など報告している。報告書の最後尾にご質問・ご意見欄を設けているが、意見や提案が少ない。早い再開を望む声はある。	

京都府 御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重大事故や感染症の発生時には、当該行政区や京都市に報告し、対応を協議している。例年高齢サポート・常磐野主催の地域ケア会議、右京区事業者連絡会に参加している。	行政には運営推進会議録や事故報告を届けたり、介護保険の更新手続きなど行っているが、施設長の交代などあり、これから連携を深めたいと受け止めている。行政主催の諸会議は中止であるが、開催すれば出席する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修でも、権利擁護や高齢者虐待とリンクさせてテーマとして取り上げている。実際のケアの場面で役立つように内容を充実させている。	御所ノ内ホームときわ全体で「身体拘束適正化委員会」を、3か月ごとに開催している。施設内研修に、身体拘束や高齢者虐待、権利擁護を組み入れ職員に周知を図っている。特に言葉の拘束「ちょっと待って」や無視はしていないかなど、職員間で話し合っている。センサーを使用している方はいるが、家族の了解を得ている。各ユニット間は、行き来できるようにしているが、現在3階は注意を要する方がおられ閉めている。事業所玄関前は車の交通量が多く、安全のため日中も施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけて説明をしている。希望されれば、持ち帰って他の家族様と検討してから同意の署名をされる場合もある。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には生活の中で適宜、家族様からは面会時やケアプラン作成に当たってのサービス担当者会議の際に家族の意向を確認している。運営推進会議の中でも意見を聞いている。	家族からの諸要望は、面会時や運営推進会議、サービス担当者会議などで聴取していたが、コロナ禍のためその機会が減少した。その状況を補うため、利用者の様子を電話や手紙、ブログで頻繁に知らせるように努めた。今年度目標達成計画に「家族アンケートの実施」を挙げていたが、法人全体でおこなうこととなった。現在、アンケート作成は完了している。家族から面会への強い要望があり、玄関のガラス越しで電話での会話を実施している。	家族との交流が少なくなった時期だからこそ、家族アンケートを早急を実施してさまざまな意見を吸い上げ、今後年1回は定期的に継続されることを望む。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で、また毎月開催しているユニット会議の中で話し合っている。	就任後、施設長がパート職員も含めた全職員に順次個別面談を実施している。人事考課面接を年2回おこない、その都度人事考課表を本人評価と施設長評価で作成している。ユニット会議では、事前に会議の議題をシートに書き提出している。「体操の充実、特浴シートの修理、手作り食事への提案、ストレッチャーの腕が当たる部分に保護クッションを取り付けて」など、多くの気づきが話し合われ実現している。	
12		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により手当が加算されるため、職員は介護福祉士等の資格の取得を目指している。また、業務出張で研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットでのOJTを基本としているが、施設内研修に参加しやすいように勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の合同会議に参加している他、京都市の認知症介護実践者研修や地域密着型事業管理者研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までに情報を記載して貰っている他、家庭訪問等をして本人様・家族様から可能な限りの情報の収集をしている。質問には丁寧に答えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直接質問することにより必要な支援を確認し、具体的な支援を一緒に計画している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今できていることを維持していけるように、家事を手伝ってもらったり、レクリエーションを一緒に楽しみながら取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話連絡の際に情報を共有している。また、毎月活動の様子を撮った写真付きの手紙を送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親族や知人の面会も家族様に確認の上、受け入れている。	利用者への面会は、家族のみの方が多くなり、知人、友人はほぼ来られない。家族との面会は玄関のガラス越しで電話を利用して話している。コロナ禍で、ドライブで馴染みの場所を訪れることもできていない。他のユニットや併設の有料老人ホームの利用者と馴染みの交流は継続している。職員は毎月、利用者の近況を伝える手紙と写真を家族に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様同士のマッチングを考慮してテーブル席を配置している。不都合なことがあれば職員が介入して関係を調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り相談や助言を行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、気持ちを汲み取り、意思表示の困難な方は家族様より話を聞いてケアの中に取り入れるようにしている。	センター方式のアセスメントシートを活用して、利用者(家族)の意向や身体状況を把握している。趣味の継続では、誕生日のお祝いの花束を活用して、花の好きな方たちと共に生け花をしている。夕食を受け取りに来た職員の後をシルバーカーを押し利用者が同行している。「いつも一緒に来てくださるんです」との言葉がある。利用者は出来ることで役割がある。レクリエーション委員会では利用者の希望を聞き、手作り食事やおやつ、各種レクリエーションを企画している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との会話の中からや家族様から聞き取って情報を増やしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ユニット会議の中でケアカンファレンスをしている他、全員概ね3か月に1回モニタリングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットでケアカンファレンスを実施している。ケアプラン見直しに向けたサービス担当者会議を実施している。	ケアカンファレンスを毎月おこない、3か月毎にモニタリング表を用い課題の評価をしている。サービス担当者会議は6か月ごとにおこない、同時にADLを中心にアセスメントシート内容も更新している。サービス担当者会議には、家族、介護支援専門員、看護師などの参加があるが、コロナ禍で家族の参加は自粛している。1つの介護課題で数個の目標が設定してある。サービス提供内容に介護の方法の個性性にやや工夫が乏しい。	1つの課題に数個の目標があるが、1課題1目標の方が課題の根拠が見やすくなるのではないかと。サービス提供内容にカンファレンスで話し合った具体的な介護方法や個性性を表記されると介護の統一になり、モニタリングに役立つのではないかと。検討を期待する。

京都府 御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録だけではなく、水分摂取量や排便状況の記録を参考にして看護師とケアについて検討するなどしている。ユニット会議の内容は議事録にまとめて情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランの見直しの時期以外にも日常的にケアについての提案がなされている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、高齢サポート・常磐野と関わる中で地域の情報を得よう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である京都武田病院・七条武田クリニック以外にも在宅時からのかかりつけ医に受診される方もいる。	利用者全員が、かかりつけ医を協力医療機関に指定して、月2回の訪問診療を受けている。緊急時の受診や入院受入れの支援がある。希望により歯科医や歯科衛生士の往診もある。協力医療機関以外の受診は家族が同行しており、家族が薬のみ受け取りに行かれることもある。利用者の状態は看護師が「状態報告書」に記録している。家族から聞き取った診察結果は「受診票」や業務日誌に記入して申し送っている。緊急時は看護師の指示を受け、救急搬送時には看護師が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当の看護師が2名いて、24時間オンコール体制が整っている。介護・看護が共同して健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体の京都武田病院とは連携が取れている。入院時にはサマリーを提出している。病院の地域連携室の調整にて退院カンファレンスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時や看取りについての説明している。延命についての意向も合わせて確認している。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」で説明をおこない同意を得ている。病状に対しては、かかりつけ医から家族に説明があり、看護師も同席している。点滴の必要な方は、協力医療機関の訪問看護で受けている。看取りの実績はない。職員は今年度研修で「救急・応急対応、緊急時・緊急搬送時の注意点」を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットにマニュアルを配備している。毎年施設内研修の必須テーマとしている。看護師・施設長・管理者・主任は24時間電話対応の準備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難誘導訓練は年2回、合わせて風水土砂災害の訓練は年1回実施している。	「災害対策マニュアル」「緊急時対応マニュアル」を整備し、年2回防災訓練をなっている。消防署の立ち合いもある。通報、初期消火、利用者とともにベランダに避難など実施している。水害の心配はない地域であり、地震想定訓練は取り入れている。AEDの使用法は「救急・応急対応」の研修で実施している。今年は地域の方の訓練への参加はコロナ禍で自粛している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年施設内研修の必須テーマとして権利擁護をとり上げている。希望により入浴の介助は同性が行うようにしている。	研修の「認知症ケアについて」や「権利擁護」の中で接遇やプライバシー保護、コミュニケーションなど学んでいる。特に、プライバシー保護に関しては、他の人に聞かれないように、わからないようになど統一している。「虐待の入り口は言葉遣いの乱れから」と意識して、リフレーミング技術も取り入れ、「頑固な人ですね」→「意志が強いですね」などの、相手の立場に立ったコミュニケーションに努めている。職員の気になる言動は、職員会議時の「議案書」に書き話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で意図的に気持ちを引き出すような会話をするように心がけている。		

京都府 御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで厳密に時間は設定しておらず、概ね各人の生活リズムで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに家族様が衣類や寝具の入れ替えをされることもあるが、気候に合わせて選ぶようにしている。訪問理美容を毎月行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年中行事やイベントの際には特別食にしている。一緒に手作りおやつを作る機会もある。	食事とおやつは施設給食業者からお弁当で届く。職員は、弁当箱から陶器の器に移し提供している。利用者は準備や片付けで、できることは手伝っている。月1回、利用者の要望に応えた手作りの食事を提供している。ちらし寿司の希望が多い。業者からのおやつには、クレープではチョコソースをかけるとかアイスクリームを添えるなど、工夫して提供している。手作りおやつのレクリエーションを設け、おはぎ、ホットケーキなどともに作っている。行事食はレクリエーション委員が注文して、お雛様はお寿司で祝った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼・嚥下の力に合わせて食事形態を変えている。主治医と相談して栄養補助飲料を処方されている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。また、毎晩義歯の洗浄殺菌を行っている。訪問歯科治療を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて記録して、昼食後にトイレに座るようにして排便を促している方がいる。	胡蝶ユニットでは、ほとんどの方がリハビリパンツやパットを使用しており、尿路感染予防のため適時陰部洗浄をしている。備品は家族の同意を得て準備しているが、持参される家族もある。職員は利用者個々の排泄パターンを把握して、随時、誘導している。夜間のみポータブルトイレの利用者もいる。	

京都府 御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取・食後の促し・内服管理を中心に行っている。おやつにヨーグルトも提供する様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を確認しながら順番に入浴している。個浴が難しい方は機械浴を行っている。	個浴は湯船の両脇に腰かけ台が設置でき、回転椅子もあり、座ったまま安全な入浴を支援している。利用者の重度化に伴い、特殊浴槽(チェアインバス)での入浴者が3~4人おられ、職員2人で介助している。職員は転倒予防に留意し、ゆったりとした時間を提供している。利用者は自分に合ったシャンプー類を使用している。仕事や生活の様子など話、歌を歌う方などそれぞれである。入浴拒否の時は利用者個々への言葉を選んで誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にしっかり眠れるように日中にレクリエーションや体操を行うようにしている。日中居室で休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報は各ユニットでファイルされているので常に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んでもらったり、おやつ作りや活け花レクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節は、近隣に散歩に出かけている。新型コロナウイルス感染症予防のために、今年度は買い物や外食レクは控えている。	お天気の良い日には近隣の散歩は続けている。コロナ禍で買い物は自粛している。ドライブでの花見はおこなった。この1年事業所内の行事には力を注ぎ、ブログで発信している。節分では甘納豆(小袋)で鬼退治をおこなった。	

京都府 御所ノ内ホームときわ(胡蝶ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金とは別に少額の現金を保管されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話があれば本人様にも変わるようにしている。家族様からの手紙は、読めない方には職員が代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけをレクリエーションとして入居者様と一緒に作ることもある。活け花をして飾ることもある。	リビングは南側に窓があり明るく広い。折り紙や切り絵で作成した桜や行事の写真が展示してある。ソファと食事テーブルは離して、くつろぎの場所を提供している。利用者の席は、生活のリズムやお互いの相性にも合わせて決めている。空間も広く動線の確保もできている。消毒剤も使用しての毎日の掃除で清潔や整理整頓に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士で席を配置している。自由に居室で過ごされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に自宅で使用している物を持ち込んでもらっている。家族から送られてきた物を飾ったりもしている。	職員は家族に危険な物は持ち込まないように依頼して、ハサミや編み棒は預かっている。編み物の得意な方は、自分で編んだチョッキを愛用されている。居室には使い慣れたなじみのダンスや椅子、家族写真、ぬいぐるみやこけしとともに、誕生日のお祝いカードが目を引く。掃除は職員と利用者で3日ごとにおこない清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒リスクを低くするために、部屋のレイアウトを変更したり、リビングでは職員が見守りやすい配置にしている。自身で活動しやすい様に配慮している。		